

【別紙2】 銚子・銚子沖における毒ガス被災事例

日 付	場 所	概 要	資 料
昭和26年 4月2日	銚子市	海岸で男性が鉄製のガスつぼを拾い、自宅で解体中に9名が中毒し、4名が失明。男性とその母親、男性の長男の3名が死亡し、6名重体。	「朝日新聞」昭和26年4月6日〔13〕 「朝日新聞」昭和26年4月7日〔14〕 「朝日新聞」昭和26年4月11日〔15〕 「千葉県における漁業補償」〔2〕
昭和29年 6月29日	銚子沖	サルベージ会社(爆発物件等引揚業者)が作業中に60kgイペリット爆弾2発を引き揚げて作業員6名が被災した	「毒ガス弾等調査資料」〔16〕
昭和32年 9月13日	銚子沖 (一の島 灯台東北 東15マイル)	漁船の底引き網に鉄製セメント樽用容器(直径10m、高さ1.2m)1個を引き揚げ、直ちに海中に投げ捨てたが乗組員9名が全治4ヶ月の重症を負った。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕 「銚子沖イペリット缶等引揚経過について」〔8〕 「千葉日報」昭和32年9月15日〔17〕
昭和33年	銚子沖	網にかかったガス弾を船上で分解しようとして17名が中毒した。	「千葉日報」昭和37年8月24日〔18〕
昭和42年 9月26日	銚子沖 (一の島 灯台NE15 マイル)	漁船がイペリットを発見し、5名負傷。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕
昭和44年 11月	銚子沖	漁船2隻がイペリット缶を引き揚げて、うち1隻の乗組員が流涙がとまらなかった。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕
昭和45年 1月17日 (17~25)	銚子沖 (一の島 灯台北東 約15海里)	漁船が底引網でビール樽のような缶を引揚げ、5名が負傷。その後、3隻の漁船もイペリットを引揚げ、15名が負傷。	「銚子沖イペリットかん等緊急掃海事業報告書」〔5〕 「千葉県における漁業補償」〔2〕 「読売新聞」夕刊昭和45年1月21日 「千葉日報」昭和45年1月23日 「朝日新聞」昭和45年2月5日 「毎日新聞」昭和45年2月5日
昭和45年 1月25日	銚子沖 (一の島 灯台北東 約15海里)	沖合い底引き船が操業中にイペリットガス缶(つぼ型)が入網。乗組員7名が目症状を訴え銚子市内の眼科で診察を受ける。44年11月から漁船7隻、乗組員30人ほどが重軽傷の被害にあっている。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕
昭和45年 3月3~11 日	銚子沖	銚子沖の掃海作業で、イペリットにより漁民8名負傷。新聞報道では9名負傷とある。	「銚子沖イペリット缶等緊急掃海事業報告書」〔5〕 「朝日新聞」夕刊昭和45年3月3日 「毎日新聞」夕刊昭和45年3月3日 「毎日新聞」昭和45年3月4日 「千葉日報」昭和45年3月4日 「千葉日報」昭和45年3月7日 「千葉日報」昭和45年3月10日
昭和45年 9月16日 ~10月2 日	銚子沖	銚子沖の掃海作業で、イペリットにより漁民7名負傷。新聞報道では8名負傷とある。	「銚子沖イペリット缶等第二次緊急掃海事業報告書」〔6〕 「千葉日報」昭和45年10月3日
昭和49年 11月12日	銚子漁港	銚子漁港岸壁拡張工事現場で、海底をさらって旧軍の砲弾探しを行っていた浚渫船が土砂とともにイペリット弾を引き上げ、1名負傷。	「千葉日報」昭和49年11月14日〔20〕 「朝日新聞」(京葉版)昭和49年11月14日〔21〕
昭和51年 9月3日	銚子沖 (犬吠崎 沖東北東 約30km)	昭和51年9月3日、銚子市犬吠埼沖(利根川河口北東約18~19マイルの海域)で茨城県波崎町の漁業者が小型底引き船で操業中、網に付着したイペリット剤(ゼリー状の塊)に触れ、5人が重軽傷を負った。	「朝日新聞」昭和51年9月5日〔22〕
平成14年 3月26日	茨城県鹿 島郡大洋 村汲上の 東30km沖	平成14年3月26日、茨城県鹿島郡大洋村汲上の東30km沖で操業中の漁船の網にイペリット缶が入網し、缶は曳航中に海底に落下したが、網に付着していたイペリット剤により3人が軽傷を負った。	「茨城県魚政課資料」〔23〕